

昆虫・クモ類

1	ヒアリ(アカヒアリ)	被害甚大種	35	セイヨウオオマルハナバチ	要注目種
2	アルゼンチンアリ	被害甚大種	36	セイヨウミツバチ	要注目種
3	イエヒメアリ	被害甚大種	37	イチジクヒトリモドキ	要注目種
4	クリタマバチ	被害甚大種	38	ハマオモトヨトウ	要注目種
5	クスベニヒラタカスミカメ	被害甚大種	39	アカハネオンブバッタ	要注目種
6	チャトゲコナジラミ	被害甚大種	40	ウスグモスズ	要注目種
7	オンシツコナジラミ	被害甚大種	41	アオマツムシ	要注目種
8	タバココナジラミバイオタイプB, Q	被害甚大種	42	コルリアトキリゴミムシ	要注目種
9	トマトハモグリバエ	被害甚大種	43	ミスジキイロテントウ	要注目種
10	ジンサンシバンムシ	被害甚大種	44	クモガタテントウ	要注目種
11	アカオビカツオブシムシ	被害甚大種	45	ヤマトオサムシダマシ	要注目種
12	ツマグロカミキリモドキ	被害甚大種	46	ラミーカミキリ	要注目種
13	コメノゴミムシダマシ	被害甚大種	47	キベリハムシ	要注目種
14	エンドウゾウムシ	被害甚大種	48	アトジロサシガメ	要注目種
15	ソラマメゾウムシ	被害甚大種	49	ヨコヅナサシガメ	要注目種
16	アルファルファタコゾウムシ	被害甚大種	50	ヘクソカズラグンバイ	要注目種
17	イネミズゾウムシ	被害甚大種	51	トガリアメンボ	要注目種
18	ヤサイゾウムシ	被害甚大種	52	キョウチクトウアブラムシ	要注目種
19	アメリカシロヒトリ	被害危惧種	53	セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	要注目種
20	オオタバコガ	被害危惧種	54	ケブカアメイロアリ	情報不足種
21	シロイチモジヨトウ	被害危惧種	55	タケクマバチ(台湾タケクマバチ)	情報不足種
22	台湾カブトムシ	被害危惧種	56	ハモグリコマユバチ	情報不足種
23	ケブトヒラタキクイムシ	被害危惧種	57	コレマンアブラバチ	情報不足種
24	アワダチソウグンバイ	被害危惧種	58	オンシツツヤコバチ	情報不足種
25	プラタナスグンバイ	被害危惧種	59	サバクツヤコバチ	情報不足種
26	ブドウネアブラムシ	被害危惧種	60	シバンムシアリガタバチ	情報不足種
27	イセリアカイガラムシ	被害危惧種	61	ムネアカハラビロカマキリ	情報不足種
28	ヤノネカイガラムシ	被害危惧種	62	ショクガタマバエ	情報不足種
29	マメハモグリバエ	被害危惧種	63	キイロショウジョウバエ	情報不足種
30	ブタクサハムシ	準被害危惧種	64	オナジショウジョウバエ	情報不足種
31	キマダラカメムシ	準被害危惧種	65	セアカゴケグモ	準被害危惧種
32	マンゴーカタカイガラムシ	準被害危惧種	66	クロガケジグモ	要注目種
33	イラガセイボウ	要注目種	67	ハイイロゴケグモ	要注目種
34	ハモグリミドリヒメコバチ(沖縄、九州個体群)	要注目種	68	マダラヒメグモ	要注目種

分類群	昆虫・クモ
1. 京都府内の外来生物の特徴	<p>京都府の外来昆虫の特徴は、アザミウマやゲンバイやゾウムシのような農業被害を起こす種類や、カツオブシムシやケシキスイやヒラタムシのような貯蔵食品を食害し食品混入異物として産業被害を起こす種類が多いことである。また生態系被害が懸念されるが被害実態がよく分かっていない種類も多い。有用昆虫では、農業害虫の天敵や授粉用に外来種が利用されており自然逸出が懸念される。定着が確認されている特定外来生物はアルゼンチンアリ、セアカゴケグモの2種類である。</p>
2. 基準選定の考え方	<p>過去の京都府レッドデータブック掲載種全種の定着状況について主に文献調査から見直し、新規確認種は掲載リストに追加し、京都府基準をもとにタイプ分けを行った。</p>
3. タイプ変更・新規追加種について	<p>過去の京都府レッドデータブック掲載種のうち継続的に定着が確認された種については、基本的に過去のタイプ判定を引き継いだ。一方、過去の京都府レッドデータブック作成以降確認されていない一部の種はタイプ判定を変更した。京都府では未だ侵入が確認されていない種でも、近隣他府県ですでに確認されている被害が大きい種(例、クビアカツヤカミキリ、クロゴケグモ)やペットとして多数の個体が輸入されているクワガタムシ・カブトムシ類は逸出の可能性が高いため追加した。</p>
4. 対策	<p>特定外来生物に指定されているアルゼンチンアリでは京都市伏見区アルゼンチンアリ根絶協議会を作り積極的に駆除が行われているが、セアカゴケグモは施設管理者の駆除努力にゆだねられている。農業被害種は農家による農薬散布等で駆除が行われている。食品混入異物となる産業被害種は食品製造・加工企業により発生抑制するとともに積極的に駆除されている。</p> <p>昆虫・クモ類は小型のため、移動や運搬に伴うヒッチハイク(混入)による非意図的導入が多いと考えられる。一方、外来クワガタムシ・カブトムシ類はペットとしての輸入が多いため、意図的導入個体の自然逸出に注意する必要がある。</p> <p>昆虫・クモ類は一般的に小型で種の判別が難しいため移入定着に気づきにくい。したがって身近な自然の変化に気づきやすい自然愛好団体や個人の発信情報を集積する博物館やそれに代わるモニタリングの仕組みが必要である。</p>
5. 備考	

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒアリ（アカヒアリ）	学名	<i>Solenopsis invicta</i>	目科名	膜翅目アリ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Ac	国リスト カテゴリー	侵入予防外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	南米
	導入・侵入年代	2017年	導入・侵入原因	貨物への紛れ込み		
②分布範囲	全国	未定着であるが、兵庫、愛知、東京、神奈川、大分、埼玉、静岡、広島、大阪、岡山、福岡、等の各県で確認されている。				
	府内	未定着であるが向日市で確認された例がある。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	単独の女王アリをもつタイプと複数の女王アリをもつタイプの2つのタイプが知られている。巣が大きくなるとマウンド状のアリ塚ができる。雑食性で、節足動物、小型脊椎動物、甘露、花蜜、種子などを利用する。					
⑤近似種との見分方	触角の棍棒部は2節からなる。腹柄節は2節からなる。腹部末端に針を持つ（通常腹部内部に隠れている）。					
⑥被害状況	女王を含む多数の個体が確認されたが、コンテナ内で殺虫処理と、周辺でのベイト剤設置が行われたため、周辺への拡散、定着の可能性は低いと考えられる。					
⑦必要な防除対策	2017年に発見されたようなケースは今後も十分起こりうることであり、また、定着した場合の被害は甚大であると考えられるため、コンテナ内のチェックと発見された場合の通報、処置は不可欠である。					
⑧改訂の理由	2017年に中国から大阪を経由して、府内に運び込まれた貨物コンテナ内で発見された。					
⑨参考文献	東正剛ほか (2008) ヒアリの生物学-行動生態と分子基盤~. 海游社					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 松本吏樹郎						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アルゼンチンアリ	学名	<i>Linepithema humile</i>	目科名	膜翅目アリ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	南米
	導入・侵入年代	1993年頃	導入・侵入原因	貨物への紛れ込み		
②分布範囲	全国	-				
	府内	伏見区				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	多数の働きアリと複数の女王からなる大規模なコロニーをつくり、主に分巢によって分布を拡大する。					
⑤近似種との見分方	腹部末端の開口部は線状。前伸腹節は側面から見て弧状。密な列をなして移動し、動きは早い。冬でも活動が見られる。					
⑥被害状況	室内への侵入により、不快害虫となっているほか、本種の侵入地では在来のアリが減少することも報告されている。					
⑦必要な防除対策	防除は困難とされているが、フィプロニルを主成分とするベイト剤および液剤を利用した計画的な防除により、根絶に成功した例も報告されている。					
⑧改訂の理由	2008年に伏見区において府下で初めて確認された。					
⑨参考文献	日本生態学会（編）（2002）外来種ハンドブック. 地人書館、杉山（2000）アルゼンチンアリの日本への侵入. 応動昆 44（2）: 127-129.					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 松本吏樹郎						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	イエヒメアリ	学名	<i>Monomorium pharaonis</i>	目科名	膜翅目アリ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	アフリカ
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	北海道を除くほぼ全国。				
	府内	詳細な分布は不明だが侵入、定着している。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	-					
⑤近似種との見分方	外部形態を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本産昆虫総目録（平嶋編）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	クリタマバチ	学名	<i>Dryocosmus kuriphilus</i>	目科名	膜翅目タマバチ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	中国
	導入・侵入年代	1949年京都府初記録	導入・侵入原因	おそらく苗木や穂木の移動		
②分布範囲	全国	沖縄県を除くすべての都道府県				
	府内	全域				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	産雌性単為生殖をおこなうので1個体でも個体群を確立できる。					
⑤近似種との見分方	クリにゴールを形成するタマバチは本種のみである。					
⑥被害状況	クリ園のクリにもゴールができています。					
⑦必要な防除対策	チュウゴクオナガコバチを導入すれば個体群密度を下げる事が可能かもしれない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	於保信彦・志村 勲（1970）植物防疫24: 421-427.					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	クスベニヒラタカ スミカメ	学名	<i>Mansoniella cinnamomi</i>	目科名	半翅目カスミカメ ムシ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	中国
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	大阪府から2016年以前に侵入		
②分布範囲	全国	大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県、徳島県				
	府内	京都市綴喜郡井手町、京都市伏見区桃山町、八幡市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	クスノキの葉に甚大な被害を与え、落葉させてしまい、木を衰弱させる。					
⑤近似種との見分方	触角と前胸は赤く、小楯板は黄色出、斑紋などから簡単に多種と区別できる。					
⑥被害状況	非常に甚大である。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	最近、関西周辺で蔓延し、被害が拡大しているから。					
⑨参考文献	かめむしニュースNo.51(2016): 13.					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	チャトゲコナジラ ミ	学名	<i>Aleurocanthus camelliae</i>	目科名	半翅目コナジラミ 科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	中国
	導入・侵入年代	2004年	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	本州(東海以西)、九州				
	府内	宇治市以外広範囲				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	チャ以外にサザンカ、ヒサカキなどにも寄生する。					
⑤近似種との見分方	ミカントゲコナジラミとは、顕微鏡では区別がつかない。電子顕微鏡で細部を比較したり、DNAの検定、成虫の配偶行動時の発音の比較などが必要である。					
⑥被害状況	茶畑ではすす病が出て、被害甚大。農薬が使えないこともあって、防除が困難である。					
⑦必要な防除対策	生物防除の適用。					
⑧改訂の理由	チャ産業は京都府にとって非常に重要であり、最近分布が広がっている。					
⑨参考文献	Kanmiya et al.(2011) Zootaxa 2297: 25-44. 上宮・吉安・香西()植物防疫.					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オンシツコナジラ ミ	学名	<i>Trialeurodes vaporariorum</i>	目科名	半翅目コナジラミ 科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北米西～南西部
	導入・侵入年代	1974年	導入・侵入原因	観賞用植物や苗などとともに侵入		
②分布範囲	全国	日本全土の主としてハウス・温室				
	府内	府南部の施設で多発				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	キュウリ、ナス、カボチャなどの果菜類、ポインセチア、ランタナ、ペラルゴニウムなどの花卉類、キク科の雑草など、多くの植物に寄生する。加温の施設内では、周年発生する。					
⑤近似種との見分方	4齢幼虫（蛹）はコロクケ状に状に盛り上がり、表面に刺状突起、周縁に短刺毛を密生する。					
⑥被害状況	葉裏に群生すると、多量の排出物で、スス病が発生する。					
⑦必要な防除対策	殺虫剤や寄生蜂による生物防除。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	外来種ハンドブック、日本農業害虫大事典、宮武(2005)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 宮武頼夫

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タバココナジラミ バイオタイプB, Q	学名	<i>Bemisia tabaci</i> <i>Biotypes B, Q</i>	目科名	半翅目コナジラミ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北米
	導入・侵入年代	1989年	導入・侵入原因	アメリカからポインセチアに付いて侵入		
②分布範囲	全国	ほぼ全国のハウス、温室栽培施設。				
	府内	府南部のハウス栽培施設、府内各地				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ポインセチアに多発するほか、トマト、カボチャ、ダイズなど多くの作物に寄生し、白化現象を起こす。野外での越冬は沖縄県のみ。					
⑤近似種との見分方	在来のタバココナジラミに酷似し、肉眼による区別は不可能である。刺毛などに極めて微小な違いがある。					
⑥被害状況	葉裏の幼虫の密度が高いと、白化現象、退色、矮凋などが起きる。同時にスス病を併発する。					
⑦必要な防除対策	殺虫剤の適用と寄生蜂（ツヤコバチ）による生物防除。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本農業害虫大事典、宮武(2005)、外来生物ハンドブック					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 宮武頼夫

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	トマトハモグリバエ	学名	<i>Liriomyza sativae</i>	目科名	双翅目ハモグリバエ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	アメリカ大陸
	導入・侵入年代	1999年京都府初記録	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道と東北の一部を除くすべての都府県				
	府内	全域				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input checked="" type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	増殖能力が高い。休眠性はない。					
⑤近似種との見分方	雄成虫の交尾器を観察する必要がある。					
⑥被害状況	主に蔬菜の葉に幼虫が潜孔を作る。					
⑦必要な防除対策	化学殺虫剤の散布や天敵昆虫の放飼。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	Abe, Y. and T. Kawahara (2001) Appl. Entomol. Zool. 36: 277-281.					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ジンサンシバンムシ	学名	<i>Stegobius paniceum</i>	目科名	鞘翅目シバンムシ科
	カテゴリー(2019)	被害甚大種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	被害甚大種	タイプ(2005)	Aa	原産地	エジプト付近と目される
	導入・侵入年代	大正から昭和初期	導入・侵入原因	貯穀とともに侵入したと考えられる		
②分布範囲	全国	日本全土。				
	府内	広く分布する。 (生息数の規模) 不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	乾燥した動植物由来のものを食するが、きわめて広い食性を持つ。					
⑤近似種との見分方	タバコシバンムシとは上翅に明瞭な縦条があることで区別できる。					
⑥被害状況	民家、食品工場など、あらゆる屋内に生息し、多種多様の乾燥食材などを食害している。また、囓る力が著しく強いため、加工食材の包材を穿孔侵入するため、異物混入の原因にもなる。また幼虫、とくに畳床に発生するものについては、シバンムシアリガタバチが寄生することにより、人体への咬刺被害や皮膚炎が発生する間接的要因となっている。					
⑦必要な防除対策	まず虫の発生を早期に発見する。フェロモントラップによるモニタリングを定期的に行う。被害が確認されたら、殺虫剤の燻煙・燻蒸を行う。畳で発生した場合には高周波マイクロ波による加熱処理が有効。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	外来種ハンドブック、安富・梅谷(1983)、松崎・武衛(1993)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

(執筆者) 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アカオビカツオブシムシ	学名	<i>Dermestes vorax</i>	目科名	鞘翅目カツオブシムシ科
	カテゴリー(2019)	被害甚大種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	被害甚大種	タイプ(2005)	Aa	原産地	不明
	導入・侵入年代	1920年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道、本州、朝鮮半島、中国、サハリン、シベリア東部。				
	府内	京都市右京区嵐山、宇治市天ヶ瀬、綴喜郡宇治田原町。（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	乾燥した貯蔵動物質を幼虫・成虫とも食害する。					
⑤近似種との見分方	上翅帯紋が赤色であることで、他のカツオブシムシ類と区別できる。					
⑥被害状況	他のカツオブシムシ類と同様、家屋害虫のひとつとして、京都府内全域で被害をもたらしていると推定される。					
⑦必要な防除対策	毛皮などの衣類には防虫剤を切らさないようにする必要がある。工場などでは薬剤の散布などを行う。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002(京都府)、外来種ハンドブック、Kiritani他(1963)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ツマグロカミキリ モドキ	学名	<i>Naccerdes melanura</i>	目科名	鞘翅目カミキリモ ドキ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	不明
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	日本全土に分布。				
	府内	京都市伏見区藤の森、綴喜郡井手町。 (生息数の規模) 不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	植物体上で他の昆虫を捕食する。					
⑤近似種との見分方	ジョウカイボン科					
⑥被害状況	体内に持つカンタリジンによって、不用意に潰すなどすると、人体に水ぶくれが生じる。海岸や河川ぞいにかつては多数発生したが、昨今では発見が困難になっている。					
⑦必要な防除対策	特に必要なし。					
⑧改訂の理由	京都府内での影響の範囲や規模が中程度である。					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002(京都府)、外来種ハンドブック、高橋(2003)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
(執筆者) 吉安裕						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コメノゴミムシダマシ	学名	<i>Tenebrio obscurus</i>	目科名	鞘翅目ゴミムシダマシ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	不明
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	国内はじめ世界各地に分布する。				
	府内	京都市左京区修学院、右京区嵐山、伏見区藤森、宇治市五ヶ庄ほか。（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	貯穀害虫として知られる。					
⑤近似種との見分方	近縁なチャイロコメノゴミムシダマシとは黒色で光沢を欠くことで区別される。					
⑥被害状況	京都府内各地の貯穀類を加害していると推定される。					
⑦必要な防除対策	薬剤散布のほか、断熱材にコーティング処理を行うことで穿孔防止に有効といわれる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002(京都府)、外来種ハンドブック、松崎(1993)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	エンドウゾウムシ	学名	<i>Bruchus pisorum</i>	目科名	鞘翅目マメゾウムシ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	西アジア
	導入・侵入年代	明治初期～中期	導入・侵入原因	アメリカからの輸入エンドウについて導入されたと考えられている		
②分布範囲	全国	日本全土				
	府内	府内全域に生息すると考えられる。（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	成虫が若いマメのさやに産卵し、幼虫がマメに食丹生して内部を食害する。幼虫はマメの生育とともに成長し、マメの完熟後に羽化する。					
⑤近似種との見分方	ソラマメゾウムシとは前胸側縁の突起が中央より前にあること、前腿節が黒色であることで区別できる。					
⑥被害状況	技術の向上により、往時のような大害は無くなったが、以前として重要な害虫である。					
⑦必要な防除対策	圃場における防除技術や燻蒸処理を含む収穫後のマメの管理、豆類の貯蔵期間の短縮					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	外来種ハンドブック、森本(1984)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ソラマメゾウムシ	学名	<i>Bruchus rufimanus</i>	目科名	鞘翅目マメゾウムシ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	地中海沿岸
	導入・侵入年代	1926年（熊本）	導入・侵入原因	1921年ごろ、アメリカまたはイギリスからの輸入ソラマメとともに侵入したとみなされている。		
②分布範囲	全国	本州、四国、九州。				
	府内	府内全域に生息すると考えられる。（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	成虫が若いマメのさやに産卵し、幼虫がマメに食丹生して内部を食害する。幼虫はマメの生育とともに成長し、マメの完熟後に羽化する。					
⑤近似種との見分方	エンドウゾウムシとは前胸側縁の突起が中央にあり、前腿節が赤褐色であることで区別できる。					
⑥被害状況	技術の向上により、往時のような大害は無くなったが、以前として重要な害虫である。					
⑦必要な防除対策	圃場における防除技術や燻蒸処理を含む収穫後のマメの管理、豆類の貯蔵期間の短縮					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	外来種ハンドブック、森本(1984)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アルファルファタ コゾウムシ	学名	<i>Hypera postica</i>	目科名	鞘翅目ゾウムシ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1982年（福岡県、 沖縄県）	導入・侵入原因	輸入貨物の隙間などに紛れ込んで侵入した可能性が指摘されている。国内では新成虫の飛翔によって分布拡大した。		
②分布範囲	全国	北海道・福島・関東・甲信・北陸以南の各都道府県。琉球列島では、沖縄島と久米島岐阜以西				
	府内	ほぼ全域に分布していると考えられる。（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	夏眠後、11月ごろからレンゲ、ウマゴヤシ、カラスノエンドウなどのマメ科植物に飛来し、1・2月を中心に12月から5月下旬まで産卵を続ける。4月中から下旬に幼虫密度がピークに達し、5月上旬ごろから新成虫が羽化し始める。成虫はマメ科植物などを摂食した後、5月中旬から発生地周辺の樹皮下や建物の隙間、石の下などに移動し、集団で夏眠する。					
⑤近似種との見分方	体長約5mm。体表に剛毛が多く、上翅に白色の横帯をもつ。在来種のコゾウムシと同じタコゾウムシ属に属するが、上翅鱗片の切れ込みは基部まで達しない。					
⑥被害状況	養蜂業に必要なレンゲの葉が被害を受けるほか、蕾や花も食害される。成虫によるキュウリ、メロン等が食害される。					
⑦必要な防除対策	播種を遅らせる（11月中旬～12月上旬）ことで成虫の侵入量を減らすことができる。門司植物防疫所は1988～89年、ヨーロッパトビチビアメバチ等4種の寄生蜂の導入が試みられた。一部で定着が確認されている。微生物の天敵利用も試みられている。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	外来種ハンドブック					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	イネミズゾウムシ	学名	<i>Lissorhoptus oryzophilus</i>	目科名	鞘翅目ゾウムシ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	アメリカ合衆国
	導入・侵入年代	1976年（愛知県）	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	全国に分布する。				
	府内	府内の水田に広く分布すると考えられる（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	雑木林の林縁などで越冬、春に単子葉類の雑草を摂食して飛翔筋を発達させ、飛行する。田植えの時期に水田に移動し、稲を摂食。卵巣を発達させて産卵する。幼虫は稲の根について摂食する。土中で蛹化。					
⑤近似種との見分方	白灰色で前胸背板および上翅の中央部に濃灰色の斑紋をもつ色彩の他、本邦産カギアシゾウムシ亜科の <i>Bagous</i> 属とは、触角中間節が6節であること、球桿部第1節が先端を除き無毛であることなどで区別できる。					
⑥被害状況	成虫は田植え直後からイネの葉を幅約1mm、長さ1～6mmに白くかすり状に食害する。幼虫は根を食害する。被害が著しい場合はかなり減収する。					
⑦必要な防除対策	有力な天敵は発見されていない。薬剤による防除時期は5月下旬～6月5日頃。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002(京都府)、外来種ハンドブック、多比良(1994)、荒田(2001)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヤサイゾウムシ	学名	<i>Listroderes costirostris</i>	目科名	鞘翅目ゾウムシ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ブラジル
	導入・侵入年代	1940年（岡山県） ごろ	導入・侵入原因	商船の貨物に付着して侵入したという推測があるのみ。		
②分布範囲	全国	岩手県以南の各都府県に分布。				
	府内	ほぼ全域に分布していると考えられる。（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	植物体上で他の昆虫を捕食する。					
⑤近似種との見分方	他のタコゾウムシ類と類似するが、前胸側縁がやや稜状で、前縁両側が眼の方へ強く張り出すことで見分ける。					
⑥被害状況	28科120種以上の多種多様の植物を加害するが、戦後の薬剤防除以降は害虫としての重要性は低下している。					
⑦必要な防除対策	薬剤に弱いことが知られる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	外来種ハンドブック					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アメリカシロヒトリ	学名	<i>Hyphantria cunea</i>	目科名	鱗翅目ヒトリガ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Aa	原産地	-
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	-				
	府内	-				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	-					
⑤近似種との見分方	-					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	2017年に京都市でカキノキ、クワ、サクラなど各種の樹木で本種の加害が確認されたため。					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 吉安 裕						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオタバコガ	学名	<i>Helicoverpa armigera</i>	目科名	鱗翅目ヤガ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ab	原産地	-
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	-				
	府内	-				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	-					
⑤近似種との見分方	-					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	近年は毎年京都府内では発生が確認され、農作物の被害が報告されているため。					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 吉安 裕						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シロイチモジヨトウ	学名	<i>Spodoptera exigua</i>	目科名	鱗翅目ヤガ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Aa	原産地	-
	導入・侵入年代	2010年	導入・侵入原因	飛翔移動？		
②分布範囲	全国	-				
	府内	-				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	-					
⑤近似種との見分方	-					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	京都府内のネギ圃場で最近本種による被害が再度問題となっている（2017年度京都府病害虫発生予察報告）。					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 吉安 裕						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タイワンカブトムシ	学名	<i>Oryctes thinoceros</i>	目科名	鞘翅目コガネムシ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ac	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	東洋区
	導入・侵入年代	1921年（沖縄）	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	奄美大島以南の南西諸島、台湾、東南アジア、インド、ミクロネシアなど。				
	府内	灯火に飛来した記録がある。（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ヤシやサトウキビの大害虫。本種が定着した南西諸島では、緑化樹として重要なヤシ類に多大な被害を与えている。					
⑤近似種との見分方	カブトムシより太短くツヤがある。腹面は多数の剛毛で覆われる。コカブトムシとは体長(3センチ以上)、オスの長い頭角などで区別できる。					
⑥被害状況	具体的な被害は府内では発生していないが、ヤシなどの大害虫として著名であり、侵入定着によって甚大な被害が出るおそれがある。					
⑦必要な防除対策	まず侵入を防ぐことが求められる。ヤシ類の植栽時の移動について、慎重に行う必要がある。					
⑧改訂の理由	2001年以降は確認されていない					
⑨参考文献	京都府レッドリスト(2003)、外来種ハンドブック					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 吉安裕



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ケブトヒラタキクイムシ	学名	<i>Minthea rugicollis</i>	目科名	鞘翅目ヒラタキクイムシ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	不明
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道から南西諸島まで全国のほか、全世界に分布する。				
	府内	京都市東山区泉涌寺、宇治市（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	乾燥材を食害する。材に栄養物が残っている限り、産卵加害が継続される。					
⑤近似種との見分方	他のヒラタキクイムシ類とは、触角第10～11節が円筒状にのび、第11節先端が切断状であること、などで区別される。他のヒラタキクイムシ類も同様に警戒が必要である。					
⑥被害状況	他のヒラタキクイムシ類と合わせ、京都府各地に分布し被害をもたらしていると考えられる。					
⑦必要な防除対策	まず木材の使用時に、できるだけラワン材を多用することを避ける必要がある。殺虫剤処理は10～11月、成虫が羽化する前の3～4月に行うとよい。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002(京都府)、外来種ハンドブック、松崎(1993)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

(執筆者) 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アワダチソウグンバイ	学名	<i>Corythucha marmorata</i>	目科名	半翅目グンバイムシ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	中南米
	導入・侵入年代	2000年	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	兵庫、大阪、奈良、京都、三重、滋賀				
	府内	八幡市、京田辺市、亀岡市、精華町、加茂町、山城地域、南丹地域の一部				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	元来、セイタカアワダチソウ、ブタクサ、オオブタクサなどに寄生していたが、最近ではヒマワリ、キクなどキク科作物を加害し、サツマイモやアメリカンブルーでも被害が確認されている。					
⑤近似種との見分方	翅端の斑紋が平たい円盤状に閉じている。					
⑥被害状況	成幼虫の吸汁により、葉表に白いかすり状の脱色斑が生じる。葉裏には黒い粘液状の排泄物が見られる。被害が甚だしい時は、葉全体が黄～白化し、枯死する場合もある。					
⑦必要な防除対策	現在のところ、本種に対する登録農薬はない。圃場付近の発生源となるキク科雑草（セイタカアワダチソウ、ブタクサなど）の除草					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	発生予察特殊報第2号（京都府病害虫防除所, 2005）、宮武(2005)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 宮武頼夫

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	プラタナスグンバイ	学名	<i>Corytucha ciliata</i>	目科名	半翅目グンバイムシ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	O	原産地	北米
	導入・侵入年代	2001年	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	東京都港区、横浜市、静岡県清水市、愛媛県松山市、福岡県北九州市、大阪府、奈良県、新潟				
	府内	京都市、亀岡市、向日市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	プラタナスの葉裏に群生し、年に数世代を繰り返し、樹皮下などで成虫で越冬する。					
⑤近似種との見分方	全体が乳白色で、体のほぼ中央部に一對の顕著な黒褐色紋を持つ。					
⑥被害状況	葉裏に群生すると、葉全体が白化して、樹の美観を損ねる。					
⑦必要な防除対策	MEP乳剤（スミチオン乳剤、1000倍液）の散布					
⑧改訂の理由	府内には既に定着しており、最近被害が増加して、範囲が広まることが考えられる。					
⑨参考文献	時広ほか(2003), 宮武(2005), 京都府害虫防除所(2006)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 宮武頼夫

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ブドウネアブラムシ	学名	<i>Viteus vitifolii</i>	目科名	半翅目ネアブラムシ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ab	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ab	原産地	アメリカ
	導入・侵入年代	1885年	導入・侵入原因	ブドウ苗木について侵入		
②分布範囲	全国	本州				
	府内	山城町（7-8年前）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	成虫や幼虫がブドウの根や葉に寄生して、樹液を吸収して根こぶや葉こぶを形成する。生活史は複雑で、樹幹や樹枝上で卵態越冬する型と、根で幼虫態で越冬する型がある。					
⑤近似種との見分方	無翅成虫は円形で、黄色。					
⑥被害状況	根や葉に虫えいを形成し、成長を阻害する。					
⑦必要な防除対策	耐虫性台木の使用					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本農業害虫大事典					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	イセリアカイガラムシ	学名	<i>lcerya purchasi</i>	目科名	半翅目ワタフキカイガラムシ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	アメリカ・台湾
	導入・侵入年代	1908年	導入・侵入原因	柑橘の苗木について侵入		
②分布範囲	全国	本州（関東）以南の日本各地				
	府内	京都市、宮津市、府内各地				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	庭園や公園に植え込みの柑橘類、トベラ、ヤツデなど多種の樹木について加害する。年2～3世代を繰り返す、主として成虫で越冬する。					
⑤近似種との見分方	卵嚢は大きく、通常15個の縦稜を有する。					
⑥被害状況	幼虫と雌成虫が主に細い枝や葉裏の葉脈にそって寄生し、しばしば群生して吸汁加害する。多量の排出液はスス病を併発する。					
⑦必要な防除対策	導入天敵のベダリアテントウの利用					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	外来種ハンドブック、日本農業害虫大事典、原色昆虫大図鑑 Ⅲ（北隆館）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 宮武頼夫

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヤノネカイガラムシ	学名	<i>Unaspis yanonensis</i>	目科名	半翅目マルカイガラムシ類
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	中国南部
	導入・侵入年代	1898年	導入・侵入原因	苗木とともに侵入		
②分布範囲	全国	本州の暖地と四国・九州の全県				
	府内	宮津市、府内各地				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	柑橘類やカラタチに寄生し、ウンシュウミカンの大害虫である。年2～3回の発生で、通常雌は成虫で越冬するが、2齢幼虫でも越冬し、雄は2齢幼虫で越冬する。					
⑤近似種との見分方	雌の背面中央には顕著な縦稜があって、矢根状をなしている。					
⑥被害状況	幼虫と雌成虫の寄生部位は、枝、幹、葉、果実など地上部全体に及び、しばしば大繁殖して大害をもたらす。					
⑦必要な防除対策	中国四川省からの導入天敵ヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチの利用					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	外来種ハンドブック、日本農業害虫大事典					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	マメハモグリバエ	学名	<i>Liriomyza trifolii</i>	目科名	双翅目ハモグリバエ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	アメリカ大陸
	導入・侵入年代	1995年京都府初記録	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道と東北の一部を除くすべての都府県				
	府内	全域				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input checked="" type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	増殖能力が高い。休眠性はない。					
⑤近似種との見分方	雄成虫の交尾器を観察する必要がある。					
⑥被害状況	主に蔬菜の葉に幼虫が潜孔を作る。					
⑦必要な防除対策	化学殺虫剤の散布や天敵昆虫の放飼。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	Abe, Y. and T. Kawahara (2001) Appl. Entomol. Zool. 36: 277-281.					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ブタクサハムシ	学名	<i>Ophraella communa</i>	目科名	鞘翅目ハムシ科
	カテゴリー (2019)	準被害危険種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危険種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1996年（国内）、 1998年（府内）	導入・侵入原因	国内への導入原因は不明。府内へは前年に見つかった大阪府方面から飛翔によって侵入したと思われる。		
②分布範囲	全国	北海道、沖縄を除く45都府県				
	府内	ほぼ全域に生息していると思われる（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ブタクサ、オオブタクサ、オオオナモミなどを主な食草としている。					
⑤近似種との見分方	イチゴハムシ、ニレハムシなどPyrrhalta属のハムシ類と一見、類似するが、上翅に黒条を持つことで区別される。					
⑥被害状況	上記の食草のほか、ヒマワリも摂食可能であることが知られるが、府内では被害についての報告はない。					
⑦必要な防除対策	食草として最も好んでいるブタクサ、オオブタクサが存在する限り、ヒマワリなどへの農業被害は発生しないと思われる。					
⑧改訂の理由	京都府内での影響の範囲や規模が中程度である。					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002(京都府)、外来種ハンドブック					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	キマダラカメムシ	学名	<i>Erthesina fullo</i>	目科名	半翅目カメムシ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	台湾
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	本州(関東以西)、九州、沖縄本島、石垣島				
	府内	京都府自然環境目録(2-15)に掲載されている。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	樹上性					
⑤近似種との見分方	クサギカメムシとは、より大形で体や足の斑紋がはっきりしている。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	京都府自然環境目録(2015)に掲載されており、各府県の外来種リストに掲載されている。					
⑨参考文献	京都府自然環境目録(2015)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
(執筆者) 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	マンゴーカタカイ ガラムシ	学名	<i>Milviscutulus mangiferae</i>	目科名	半翅目カタカイガ ラムシ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ab	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Ab	原産地	熱帯・亜熱帯地域
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	苗木について？		
②分布範囲	全国	本州（紀伊半島）以南の日本各地				
	府内	府内では未確認であるが、周辺（大阪府や奈良県）の状況から侵入している可能性が大である				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	広食性で、マンゴーほか柑橘類、ホルトノキ、ヤツデ、ゲッケイジュなど様々な樹木を加害する。雌せいちゅうだけで単為生殖を行う。					
⑤近似種との見分方	○					
⑥被害状況	幼虫と雌成虫が葉裏に多発し、排出液で葉面がべたついたり、スス病を併発する。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本農業害虫大事典					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	イラガセイボウ	学名	<i>Chrysis shanghaiensis</i>	目科名	膜翅目セイボウ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Ab	原産地	-
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	北海道を除くほぼ全国。				
	府内	詳細な分布は不明だが侵入、定着している。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	-					
⑤近似種との見分方	外部形態を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	在来のイラガの個体群動態に影響を及ぼしている可能性。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	近年個体数が減少したとされるが、少なくとも複数年に渡り、また近年にも記録されており、定着していると考えられるため。					
⑨参考文献	日本産昆虫総目録（平嶋編）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 松本吏樹郎改定

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハモグリミドリヒメコバチ（沖縄、九州個体群）	学名	<i>Neochrysocharis formosa</i>	目科名	膜翅目ヒメコバチ科
	カテゴリー（2019）	要注目種	タイプ（2019）	Ab	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー（2005）	要注目種	タイプ（2005）	Ab	原産地	沖縄県
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	-				
	府内	各地で放飼。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	定着する可能性あり。					
⑤近似種との見分方	外部形態を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	セイヨウオオマルハナバチ	学名	<i>Bombus terrestris</i>	目科名	膜翅目ハナバチ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ab	国リスト カテゴリー	産業管理外来種
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ab	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	-				
	府内	各地で放飼。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	定着する可能性あり。					
⑤近似種との見分方	外部形態を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	セイヨウミツバチ	学名	<i>Apis mellifera</i>	目科名	膜翅目ミツバチ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	全国。				
	府内	各地に分布。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	-					
⑤近似種との見分方	外部形態を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	イチジクヒトリモドキ	学名	<i>Asota ficus</i>	目科名	鱗翅目ヒトリモドキガ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Db	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	-
	導入・侵入年代	2010年	導入・侵入原因	飛翔移動？		
②分布範囲	全国	本州（東海地方以西）、四国、九州、南西諸島				
	府内	京都市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	若齢～中齢幼虫がイチジクの葉を集団で摂食し、その後分散し葉全体を摂食し、時に樹木の葉をほぼすべてを食する。イチジクを含むクワ科の数種樹木のみを加害する。					
⑤近似種との見分方	-					
⑥被害状況	上記参照。					
⑦必要な防除対策	物理的防除（幼虫被害葉の除去）					
⑧改訂の理由	これまで沖縄県や九州では本種の分布が報告されていたが、1999年に四国で初めて発生定着が報告されて以来、中国地方をはじめとして北方に分布拡大して、2010年に近畿各県のイチジク畑で本種幼虫の被害が確認された。京都府では、2011年に京都市内の栽植されたイチジク上で本種幼虫が確認された（吉安,未発表）。					
⑨参考文献	窪田聖一・金崎秀司, 2001. 愛媛県におけるイチジクヒトリモドキの発生. 四国植物防疫研究, (36): 69-74; 大政義久・中田孝江・大西論平, 2001. イチジクヒトリモドキの発生と防除. 植物防疫, 65 (4): 10-13					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 吉安 裕						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハマオモトヨトウ	学名	<i>Brithys crini</i>	目科名	鱗翅目ヤガ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Da	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	-
	導入・侵入年代	2016年	導入・侵入原因	飛翔移動?		
②分布範囲	全国	本州、四国、九州、屋久島、種子島				
	府内	京都市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input checked="" type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	タマスダレなどの園芸植物ほか、ヒガンバナ科の植物の葉を食害する。ただし、ヒガンバナでは今のところ加害はみられない。					
⑤近似種との見分方	頭部は橙色、幼虫体が黒色で白い斑点を散布するので容易に識別できる。					
⑥被害状況	葉の食害					
⑦必要な防除対策	物理的防除					
⑧改訂の理由	2016年秋季に京都市で本種の幼虫が確認された。					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 吉安 裕						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アカハネオンブ バッタ	学名	<i>Atractomorpha sinensis</i>	目科名	直翅目オンブバッ タ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	中国
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	大阪府から分布拡大		
②分布範囲	全国	関西周辺				
	府内	京都市、南丹市、亀岡市など				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	-					
⑤近似種との見分方	オンブバッタとは、後翅が紅色であることで見分けられる。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	近年大阪府より分布が拡大してきて、かなり各地で見られるようになった。					
⑨参考文献	日本直翅類学会編 日本産直翅類標準図鑑(2016) 松本吏樹郎の「アカハネオンブバッタの分布図」 (Google Map)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ウスグモスズ	学名	<i>Amsurgus genji</i>	目科名	直翅目ヒバリモドキ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	中国
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	おそらく中国		
②分布範囲	全国	本州（関東～近畿）、九州、八丈島、小笠原諸島				
	府内	京都府音羽川				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	樹上性					
⑤近似種との見分方	同属の近縁種は、1種のみで奄美大島以南にしかない。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	原産地が明瞭ではないが、各県の外来種リストに掲載されている。					
⑨参考文献	インターネット(ブログ京都むしむし大図鑑)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アオマツムシ	学名	<i>Gryllodes sigillatus</i>	目科名	直翅目マツムシ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Aa	原産地	中国南部
	導入・侵入年代	1898年	導入・侵入原因	苗木について侵入		
②分布範囲	全国	本州（関東）から九州に広く分布				
	府内	府内全域				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	サクラなどの樹上で生活、年1化で8月頃から出現する。ナシ・モモ・ウメ・カキなども加害する。					
⑤近似種との見分方	美しい緑色。					
⑥被害状況	各種の果樹・庭木・街路樹などの葉や果実を摂食して被害を与える。また、雌成虫が若い枝の組織内に産卵すると、成長を阻害し、枝折れの原因ともなる。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	原色昆虫大図鑑 Ⅲ（北隆館），大阪市立自然史博物館展示解説					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コルリアトキリゴ ミムシ	学名	<i>Lebia viridis</i>	目科名	鞘翅目オサムシ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ba	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1989年（国内）、 2000年（府内）	導入・侵入原因	備用の干し草飼料に混入してきたとされるが、国内では 芝生とともに分布を拡大した可能性が指摘されている (多比良、1994)。		
②分布範囲	全国	本州				
	府内	記録は舞鶴市高野台のみ。 （生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input checked="" type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	雑食性だが、花上で見られることが多い。					
⑤近似種との見分方	3.5～5mm。背面全体が光沢のある青緑色であることから、他のアトキリゴミムシ類と区別できる。					
⑥被害状況	具体的な被害については、確認できていない。					
⑦必要な防除対策	今後の分布拡大の推移を見守るとともに、生態系への影響の有無などについても分析を行う必要がある。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002(京都府)、多比良(1994)、荒田(2001)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

(執筆者) 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ミスジキイロテントウ	学名	<i>Brumoides ohtai</i>	目科名	鞘翅目テントウムシ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Aa	原産地	台湾
	導入・侵入年代	1985年（沖縄）	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州、九州、沖縄、石垣島。				
	府内	正式な記録はないが、すでに侵入している可能性が高い。（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input checked="" type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	芝生の中を潜り込むように歩行する。					
⑤近似種との見分方	湿地に生息するクロスジチャイロテントウと、模様がやや類似するが、体型や色彩が異なり、区別は容易である。					
⑥被害状況	侵入により、他の草原性テントウムシ類との競合が懸念される。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	外来種ハンドブック					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 吉安裕						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	クモガタテントウ	学名	<i>Psyllobora vigintimaculata</i>	目科名	鞘翅目テントウムシ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1984年（東京）	導入・侵入原因	船舶によって持ち込まれたと推定されている		
②分布範囲	全国	本州に分布				
	府内	京都市中京区・伏見区、宇治市で分布が確認されているが、すでに広く分布している可能性が				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	白渋病菌（ウドンコ病菌）を食べる。セイタカワダチソウ、芙蓉などの植物体上で見られる。					
⑤近似種との見分方	体長1.8～3.0mm。黄褐色地に黒褐～淡褐色の斑紋を備える。邦産テントウムシ科に近似種はない。					
⑥被害状況	具体的な被害は確認されていないが、同様にウドンコ病菌を摂食する甲虫類との競合などが考えられる。					
⑦必要な防除対策	拡大を防ぐとともに、生態系への影響を見守る必要がある。					
⑧改訂の理由	京都府内での影響の範囲や規模が中程度である。					
⑨参考文献	京都府自然環境目録2002(京都府)、佐々治(2000)、窪木・和泉(1985)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 吉安裕

分布域



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヤマトオサムシダ マシ	学名	<i>Blaps japonensis</i>	目科名	鞘翅目ゴミムシダ マシ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ba	原産地	中国・台湾？
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	交易により渡来？		
②分布範囲	全国	本州、四国、九州。				
	府内	京都市左京区杉峠；浄土寺、右京区梅津；西京区桂など。（生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	詳細は不明だが、古い家屋の床下や納屋などに多い。飛翔力はない。					
⑤近似種との見分方	特異な形態で識別は容易である。					
⑥被害状況	古い家屋が少なくなってきており、本種は激減している。					
⑦必要な防除対策	特になし。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002(京都府)、外来種ハンドブック					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 吉安裕						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ラミーカミキリ	学名	<i>Paraglenea fortunei</i>	目科名	鞘翅目カミキリムシ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Aa	原産地	中国
	導入・侵入年代	1873年（長崎）、 一説に安土桃山時代	導入・侵入原因	繊維を採るために導入されたラミーと共に移入されたものだと考えられている		
②分布範囲	全国	関東地方以西の西日本に分布する。				
	府内	京都市西京区松尾、宇治市五ヶ庄、同・天ヶ瀬、綴喜郡井手町などで記録がある。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ラミー、カラムシ、ヤブマオ、シナノキ、ムクゲなどの葉や茎を食べる。幼虫もこれらの植物の茎や根を食べる。					
⑤近似種との見分方	淡い青緑色と前胸背板の2つの黒斑が特徴的で、類似する昆虫はなく、識別が容易である。					
⑥被害状況	初夏のころの路傍のカラムシに多いが、一部に植栽木なども加害するため、警戒が必要である。					
⑦必要な防除対策	特になし。					
⑧改訂の理由	京都府内での影響の範囲や規模が中程度である。					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002(京都府)、高橋 徹(2003)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 吉安裕						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	キベリハムシ	学名	<i>Oides bowringii</i>	目科名	鞘翅目ハムシ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Aa	原産地	中国南部・ベトナム
	導入・侵入年代	1913年以前（兵庫 県）	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	兵庫県および京都府				
	府内	美山町および夜久野町。 （生息数の規模）不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	マツブサ科サネカズラ <i>Kadsura japonica</i> 、マツブサ <i>Schisandra repanda</i> の葉を食する。					
⑤近似種との見分方	大型で黄色い縁取りを持つ美麗種で、識別は容易である。					
⑥被害状況	京都府での定着のもようは不明であるが、土着の植物を加害する可能性があるため、警戒が必要である。					
⑦必要な防除対策	確認されれば駆除するのが望ましい。					
⑧改訂の理由	京都府内での影響の範囲や規模が中程度である。					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002(京都府)、外来種ハンドブック					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 吉安裕						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アトジロサシガメ	学名	<i>Yolinus albopustulatus</i>	目科名	半翅目サシガメ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	中国
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	本州				
	府内	相楽郡精華町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ヨコヅナサシガメの幼虫を補食する。					
⑤近似種との見分方	ヨコヅナサシガメとは、腹部後端の2節のみに淡白色の大きな斑紋があることで区別できる。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	ここ数年で、分布を拡大している。					
⑨参考文献	かめむしニュース(カメムシ研究会) No.45(2015): 2.					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヨコツナサシガメ	学名	<i>Agriosphodrus hohrni</i>	目科名	半翅目サシガメ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ba	原産地	中国
	導入・侵入年代	史前帰化	導入・侵入原因	樹木について侵入？		
②分布範囲	全国	本州（中部以西）、四国、九州				
	府内	京都市内、府内各地				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input checked="" type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	神社や公園などの人里的な環境の、サクラやエノキの樹幹にいることが多い。多くの昆虫やクモなどを捕食するが、動作は緩慢である。					
⑤近似種との見分方	体は黒くて光沢があり、腹部結合板が葉状に広がり、白色で各節に黒斑を持つ。					
⑥被害状況	むしろ害虫を捕食するので益虫的な要素が強く、植物への害はない。時に人を刺すことがある。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	原色昆虫大図鑑 Ⅲ（北隆館）、日本原色カメムシ図鑑（全農教）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヘクソカズラグンバイ	学名	<i>Dulinius conchatus</i>	目科名	半翅目グンバイムシ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	要注目種	タイプ(2005)	Ba	原産地	東南アジア
	導入・侵入年代	1996年	導入・侵入原因	伊丹空港を中心に広がった可能性がある		
②分布範囲	全国	兵庫県、大阪府、奈良県、京都府、滋賀県				
	府内	京都市内				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ヘクソカズラの葉裏に群生し、年に数世代を繰り返す、成虫で越冬する。					
⑤近似種との見分方	前胸背の帽状部、翼状突起及び側隆起などは黒褐色を帯びる。					
⑥被害状況	葉裏に群生すると、葉全体が白化し、やがて枯れるが、株全体が枯れることはない。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	友国・斉藤(1998), 山本(2005), 宮武(2005)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
(執筆者) 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	トガリアメンボ	学名	<i>Rhagadotarusus kraepelini</i>	目科名	半翅目アメンボ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ba	原産地	東南アジアの熱帯域
	導入・侵入年代	2001年	導入・侵入原因	花の万博の際に水草について入ったのではないかとされているが、不明。		
②分布範囲	全国	兵庫県、大阪府、京都府、三重県、香川県、徳島県、岡山県、広島県				
	府内	京都市嵯峨広沢、太秦				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	長翅型と無翅型があり、長翅型は移動できる。まわりに林があるため池などに生息し、浮いている木片などに産卵する。					
⑤近似種との見分方	腹部の先端が円錐状に突出している					
⑥被害状況	発生している池では、かなりの数が群生しているので、他のアメンボ類に与える影響は小さくないと判断される。					
⑦必要な防除対策	特に考えられない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	中谷ほか(2003), 山尾・中尾(2003), 宮武(2005)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	キョウチクトウア ブラムシ	学名	<i>Aphis nerii</i>	目科名	半翅目アブラムシ 科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ba	原産地	-
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	北海道から沖縄まで日本全土				
	府内	府内の分布は未確認				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	春から夏にかけてキョウチクトウの新梢や新葉の裏面に群生し、夏にはガガイモやトウワタにも寄生する。無翅胎生雌や幼虫で越冬する。					
⑤近似種との見分方	美しい黄金色で、斑紋がない。					
⑥被害状況	新梢の生育を阻害し、夏には花梗にも寄生し花付きを悪くする。また排出物にスヌ病が発生し、美観をそこなう。					
⑦必要な防除対策	オルトランなどの農薬で対応。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本農業害虫大事典					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	セイトカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	学名	<i>Uroleucon nigrotuberculatum</i>	目科名	半翅目アブラムシ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	要注目種	タイプ(2005)	Ba	原産地	北米
	導入・侵入年代	1996年	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	千葉県、茨城県、大阪府、奈良県、滋賀県、三重県、山口県				
	府内	京都市、京田辺市など				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	セイトカアワダチソウの新梢に群生するが、シュンギク・アスター・シラヤマギクにも寄生する。春・秋に個体数が増え、夏には減少する。					
⑤近似種との見分方	比較的大型で、体は鮮やかな赤色。					
⑥被害状況	新梢に群生すると、白化し、矮化・枯死することもある。洗濯物などにつくと、赤く汚染する。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	田中・宗林(1999), 宮武(2005)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	マダラヒメグモ	学名	<i>Steatoda triangulosa</i>	目科名	クモ目ヒメグモ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	-
	導入・侵入年代	1982年（国内）	導入・侵入原因	海外からの資材等に付着して偶然、国内に侵入したものと推定される。		
②分布範囲	全国	秋田県、山形県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、山梨県、長野県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、鳥取県、岡山県、広島県、愛媛県、福岡県、長崎県、熊本県				
	府内	京丹後市、宮津市、舞鶴市、福知山市、綾部市、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市（左京区）、城陽市、井手町、京田辺市、木津川市、笠置町、南山城村				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] ■定着性が高い、■環境適応性が高い、■繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	人家、倉庫、駅舎などの建造物の内部やその周辺に生息する。非常に細い糸で不規則網を造り、雌は卵囊を巣網内に保持する。					
⑤近似種との見分方	体長は、雌 3.5~6.5 mm、雄 3.5~5 mm。腹部には暗色（黒色~茶褐色）と明色（白色~淡褐色）のまだら模様がある。本種と同じような場所に生息するオオヒメグモとは、腹部のまだら模様によって区別できる。、卵囊は直径5 mm程度で、白色であり、これが巣網にあるとよく目立つ。オオヒメグモの褐色の卵囊とは明らかに異なるので、卵囊による区別は容易。					
⑥被害状況	主に人工的な環境に生息するため、現時点では、一般生態系への影響はほとんどないと考えられる。ただ、標高1,200 m の高地にも生息するとの情報もあり、京都府内において、今後、生息域が拡大する可能性もあるので注意が必要。					
⑦必要な防除対策	今後の分布拡大の推移に注意しつつ、生態系への影響の有無について分析を行う必要がある。					
⑧改訂の理由	2012年に京都府内（京都市左京区）で初めて発見され、京都府内における分布域が拡大していると考えられる。					
⑨参考文献	新海ほか，2016；新海，2017；吉田，2014.					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 加村隆英



上の3枚：雌成体，左下：雄成体，右下：卵囊。

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タケクマバチ（タイワンタケクマバチ）	学名	<i>Xylocopa (Biluna) tranquebarorum</i>	目科名	膜翅目ミツバチ科
	カテゴリー(2019)	情報不足種	タイプ(2019)	Db	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	大陸中国と考えられている
	導入・侵入年代	2006年	導入・侵入原因	輸入竹材への混入		
②分布範囲	全国	近畿、東海、中部地方				
	府内	宇治市に定着しているが				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	枯れた竹の節間に穴を空け、内部に花粉団子を貯え営巣する。巣内で成虫で越冬する。					
⑤近似種との見分方	体長2cm程度。翅は強く曇り、金属光沢をもつ。胸部。腹部、脚ともに黒色。オスの胸部の毛は灰色。					
⑥被害状況	竹材に営巣することによる品質の劣化。ほうきなどの柄にも営巣し、気づかずに触れて刺されるといった被害も起こっている。					
⑦必要な防除対策	枯竹を移動させる際には営巣していないか確認して、さらなる拡大を防ぐ必要がある。					
⑧改訂の理由	愛知県で発見された後、徐々に生息範囲をひろげ、宇治市など府内にも定着している。在来のクマバチとは異なる共生ダニを伴って移入している。					
⑨参考文献	Okabe et al. (2010) Invasion pathway and potential risks of a bamboo-nesting carpenter bee, <i>Xylocopa tranquebarorum</i> (Hymenoptera: Apidae), and its micro-associated mite introduced into Japan. <i>Appl Entomol Zool.</i> 45(2), 329-337.					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 松本吏樹郎

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハモグリコマユバチ	学名	<i>Daenusa sibirica</i>	目科名	膜翅目コマユバチ科
	カテゴリー(2019)	情報不足種	タイプ(2019)	Dc	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	情報不足種	タイプ(2005)	Dc	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	-				
	府内	各地で放飼。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	定着する可能性あり。					
⑤近似種との見分方	外部形態を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コレマンアブラバチ	学名	<i>Aphidius colemani</i>	目科名	膜翅目コマユバチ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Dc	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Dc	原産地	-
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	-				
	府内	各地で放飼。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	定着する可能性あり。					
⑤近似種との見分方	外部形態を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オンシツツヤコバチ	学名	<i>Encarsia formosa</i>	目科名	膜翅目ツヤコバチ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Dc	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Dc	原産地	北米
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	-				
	府内	各地で放飼。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	定着する可能性あり。					
⑤近似種との見分方	外部形態を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	サバクツヤコバチ	学名	<i>Eretmocerus eremicus</i>	目科名	膜翅目ツヤコバチ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Dc	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Dc	原産地	カリフォルニア州
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	-				
	府内	各地で放飼。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	定着する可能性あり。					
⑤近似種との見分方	外部形態を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シバンムシアリガ タバチ	学名	<i>Cephalonomia gallicola</i>	目科名	膜翅目アリガタバ チ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Ab	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Ab	原産地	アフリカ
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	全国。				
	府内	詳細な分布は不明だが侵入、定着している。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	-					
⑤近似種との見分方	外部形態を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本産昆虫総目録（平嶋編）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ムネアカハラビロ カマキリ	学名	<i>Hierodula sp.</i>	目科名	カマキリ目カマキ リ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Bb	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	中国
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	本州、九州				
	府内	京都府として記録あり				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	-					
⑤近似種との見分方	ハラビロカマキリと比べて、前胸背は細長く、腹面は紅みを帯びる。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	最近京都府で分布が確認された。					
⑨参考文献	日本直翅類学会編 日本産標準直翅類図鑑(2016)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 宮武頼夫						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ショクガタマバエ	学名	<i>Aphidoletes aphidimyza</i>	目科名	双翅目タマバエ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Dd	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Dd	原産地	-
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	-				
	府内	府内でも販売されているので注意しておいた方がよい。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	-					
⑤近似種との見分方	外部形態を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	農薬要覧（日本植物防疫協会）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	キイロショウジョウバエ	学名	<i>Drosophila melanogaster</i>	目科名	双翅目ショウジョウバエ科
	カテゴリー(2019)	情報不足種	タイプ(2019)	Da	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	情報不足種	タイプ(2005)	Da	原産地	-
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	全国的に分布。				
	府内	確実な分布記録は無いようであるが分布の可能性あり。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	増殖能力が高い。休眠性はない。					
⑤近似種との見分方	体表の構造を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本産昆虫総目録（平嶋編）、ショウジョウバエの遺伝実習（森脇編）、外来種ハンドブック（日本生態学会編）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オナジショウジョウバエ	学名	<i>Drosophila simulans</i>	目科名	双翅目ショウジョウバエ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Da	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	情報不足種	タイプ (2005)	Da	原産地	-
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	全国的に分布。				
	府内	確実な分布記録は無いようであるが分布の可能性あり。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	増殖能力が高い。休眠性はない。					
⑤近似種との見分方	体表の構造を詳細に調べる必要がある。					
⑥被害状況	-					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	日本産昆虫総目録（平嶋編）、ショウジョウバエの遺伝実習（森脇編）、外来種ハンドブック（日本生態学会編）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 阿部芳久						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	セアカゴケグモ	学名	<i>Latrodectus hasselti</i>	目科名	クモ目ヒメグモ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	オーストラリア
	導入・侵入年代	1995年（国内）、 2005年（京都府）	導入・侵入原因	海外からの資材等に付着して偶然、国内に侵入したものと推定される。		
②分布範囲	全国	青森県，秋田県，長野県以外の都道府県で発見されている。				
	府内	亀岡市，京都市（左京区，下京区，南区，伏見区），向日市，長岡京市，大山崎町，久御山町，八幡市，宇治市，城陽市，京田辺市，井手町，精華町，木津川市，笠置町，南山城村				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input type="checkbox"/>生態系被害、<input type="checkbox"/>農林水産業被害、<input checked="" type="checkbox"/>人身・健康被害、<input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、<input type="checkbox"/>植生への影響、<input checked="" type="checkbox"/>競合・駆逐、<input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、<input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、<input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、<input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、<input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、<input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、<input type="checkbox"/>被害が大きい、<input checked="" type="checkbox"/>特殊性、<input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	各種建築物の外壁、フェンス、街灯の支柱、野外のベンチ、道路わきの側溝等、さまざまな人工的環境に生息し、糸を不規則に張り巡らした巣網をつくる。乾燥や高温によく耐える。雌は卵嚢を巣網内に保持する。1匹の雌が3～8個の卵嚢をつくる。1卵嚢中の卵は50～200個。					
⑤近似種との見分方	雌成体は体長7～10 mm。全体に黒色で、腹部背面の中央部から後方にかけて赤色の斑紋が走る。個体によってはさらに、この赤色斑の前方および側方にもいくつかの斑紋を持つことがある。雄成体の体長は3～4 mm。雌の若齢個体や雄では、体色が淡く、腹部には複雑な斑紋があり、雌成体とはかなり異なった印象を与える。雌成体は腹部背面の赤色斑によって同定は容易だが、雌の若齢個体や雄は、前項に記述したような本種と同様の環境に生息するオオヒメグモや他のヒメグモ類と混同される可能性がある。ゴケグモ類は一般に、腹部腹面に四角形ないし砂時計形の赤色の斑紋があることが特徴であり、本種もこれによってオオヒメグモ等と区別できる。					
⑥被害状況	脊椎動物に有効な毒を持ち、いわゆる毒グモの範疇に入る。現時点では、深刻な健康被害は報告されていないが、幼児や高齢者において、また、健康な成人でも体質によっては重篤な症状を呈する可能性がある。今のところ、生息場所は人工的環境に限られているので、一般生態系への影響はないと思われるが、今後、生息域が拡大する可能性もあるため注意が必要。					
⑦必要な防除対策	府民に注意を喚起し、発見した時は関係機関へ通報するよう呼びかける。駆除にあたっては、クモだけでなく、卵嚢の除去が重要。とくに卵嚢内で子グモが孵化している場合があるので、その子グモを分散させないように注意する必要がある。クモそのものには、市販のピレスロイド系殺虫剤が有効だが、卵嚢内の卵や子グモへの効果は薄いので、クモおよび卵嚢をつぶして殺すことが確実。また、建造物等の隙間に入り込んで、容易に発見できない個体もあるので、生息が確認された場所では、以後、定期的に調査する必要がある。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	金沢ほか，1996；昆虫情報処理研究会，2017；日本生態学会，2002；西川，1995；西川・金沢，1996；西川・富永，1996；大和ほか，1996；清水ほか，2012；新海ほか，2016。					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 加村隆英						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	クロガケジグモ	学名	<i>Badumna insignis</i>	目科名	クモ目ウシオグモ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	A a	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	A a	原産地	オーストラリア
	導入・侵入年代	1963年（国内）	導入・侵入原因	海外からの資材等に付着して偶然、国内に侵入したものと推定される。		
②分布範囲	全国	千葉県, 東京都, 神奈川県, 石川県, 長野県, 岐阜県, 静岡県, 愛知県, 三重県, 滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県, 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 徳島県, 香川県, 愛媛県, 福岡県, 熊本県, 大分県, 宮崎県				
	府内	亀岡市, 京都市南部の市街域, および, 以南のすべての市町村				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	人工の建造物等の種々の隙間に潜み、そこから糸を伸ばして造網する。巣網の大きさは、造網場所によってかなり異なるが、ときに直径 40~50 cm に及ぶことがある。乾燥や高温によく耐える。局所的に大発生することがある。					
⑤近似種との見分方	体長は雌10~15 mm、雄4.5~12 mm。全体に灰黒色~暗褐色。在来種のヤチグモ類とやや似ているが、本種は腹部末端の出糸突起の腹面側に篩板（横長の特殊な出糸器官）を持つことで区別できる。また、本種の巣網には、多数のジグザグの白い糸が目立つ（ヤチグモ類の巣網のサイズは概して小さく、均質なシート状で、白い糸が特に目立つことはない）。					
⑥被害状況	主に人工的な環境に生息するため、現時点では、一般生態系への影響はほとんどないと考えられる。しかし、今後、生息域が拡大する可能性もあるので注意が必要。また、時に大発生することがあり、巣網がかなり大きくなることもあるため、建造物が汚損されることがある。なお、本種の毒性はある程度強く、咬まれるとひどく痛み、時に、筋肉の腫脹、悪心、嘔吐、ひどい発汗などを引き起こすことがある。健康被害については報告されていないが、注意が必要。					
⑦必要な防除対策	生態系への悪影響、健康被害は今のところ報告されていないが、外来種である以上、放置することは適切ではなく、駆除を検討する必要がある。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	新海ほか, 2016; 新海, 2017; 八木沼, 1974.					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 加村隆英						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハイイロゴケグモ	学名	<i>Latrodectus geometricus</i>	目科名	クモ目ヒメグモ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Cc	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	-
	導入・侵入年代	1995年（国内）、 2006年（京都府）	導入・侵入原因	海外からの資材等に付着して偶然、国内に侵入したものと推定される。		
②分布範囲	全国	神奈川県、東京都、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、山口県、福岡県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県				
	府内	城陽市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	各種建築物の外壁、フェンス、街灯の支柱、野外のベンチ、道路わきの側溝等、さまざまな人工的環境に生息し、糸を不規則に張り巡らした巣網をつくる。乾燥や高温によく耐える。雌は卵嚢を巣網内に保持する。					
⑤近似種との見分方	体長は、雌 7~10 mm、雄 2.5~4 mm。全体に灰褐色ないし黄褐色で、腹部には暗色および白色の斑紋がある。体色の多様性が高く、暗褐色の個体もある。前項に記述したような本種と同様の環境に生息するオオヒメグモや他のヒメグモ類と混同される可能性がある。ゴケグモ類は一般に、腹部腹面に四角形ないし砂時計形の赤色の斑紋があることが特徴であり、本種もこれによってオオヒメグモ等と区別できる。、卵嚢は、その表面に多数の小突起があることが特徴で、巣網に卵嚢がある場合は、これによってセアカゴケグモおよび他のヒメグモ類と明瞭に区別することができる。					
⑥被害状況	脊椎動物に有効な毒を持ち、いわゆる毒グモの範疇に入る。現時点では、京都府内での発見は1回のみで、健康被害は報告されていない。本種の攻撃性は弱く、人を咬むことはほとんどないと言われるが、万一咬まれた場合は、重篤な症状を呈する可能性がある。今後、京都府内への新たな侵入を警戒する必要がある。					
⑦必要な防除対策	府民に注意を喚起し、発見した時は関係機関へ通報するよう呼びかける。駆除にあたっては、クモだけでなく、卵嚢の除去が重要。とくに卵嚢内で子グモが孵化している場合があるので、その子グモを分散させないように注意する必要がある。クモそのものには、市販のピレスロイド系殺虫剤が有効だが、卵嚢内の卵や子グモへの効果は薄いので、クモおよび卵嚢をつぶして殺すことが確実。また、建造物等の隙間に入り込んで、容易に発見できない個体もあるので、生息が確認された場所では、以後、定期的に調査する必要がある。					
⑧改訂の理由	2006年に京都府内（城陽市）で初めて発見された。					
⑨参考文献	金沢ほか，1996；昆虫情報処理研究会，2017；日本生態学会，2002；清水ほか，2012；新海ほか，2016。					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 加村隆英



左・中：雌成体，右：卵嚢

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ケブカアメイロアリ	学名	<i>Nylanderia amia</i>	目科名	膜翅目アリ科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Da	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	台湾、南西諸島
	導入・侵入年代	-	導入・侵入原因	-		
②分布範囲	全国	九州、中国、近畿地方（南西諸島は自然分布と考えられている）				
	府内	京都市伏見区から記録があるが、さらに広く分布していると考えられるが詳しい状況は不明。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	裸地や草地などの乾いた環境で多く見られる。					
⑤近似種との見分方	体は褐色から黒褐色で大あご先端に6歯をもつ。前・中胸背板に多数の剛毛がある					
⑥被害状況	府内での影響やその範囲については不明である。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	九州南部や沖縄において生息が確認されていたが、近年京都府を含む、近畿各地でも定着が確認されている。					
⑨参考文献	アリ類データベースグループ (2003) 日本産アリ類全種図鑑、学研。					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 松本吏樹郎						